

# 近代 数寄者の ネットワーク

茶の湯を愛した実業家たち

齋藤康彦著

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三……。

彼ら近代実業家は明治から昭和初期にかけて互いに激しく争い、経済の発展に貢献した。その一方で、茶道を愛し、数寄者と称された彼らが茶会において何度も同席し、財閥の枠を超えた交流が繰り広げられていたことはほとんど知られていない。

本書は、近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを析出するものである。

▼A5判・二五六頁／定価四、二〇〇円（税込） ISBN978-4-7842-1603-1

2012年2月刊行予定・予約受付中

〔内容目次〕

第1章 茶の湯の復興と近代数寄者の登場

近代茶界の成立  
和敬会の発足  
松浦詮の百会茶会

第2章 新興財界人の台頭

近代数寄者のネットワーク  
近代数寄者の存在形態  
住友春翠『御茶会記』のネットワーク

第3章 近代数寄者の大寄せ茶会と社会文化事業

大師会のネットワーク  
光悦会の成立と活動  
高野山靈宝館と平家納経

第4章 キーパーソン高橋義雄の世界

実業家高橋義雄の足跡と位置  
実業界でのネットワーク  
趣味世界でのネットワーク  
慶応義塾と水戸人脈

第5章 近代数寄者の世代交代

昭和前期のネットワーク  
第四世代の存在形態  
女流茶人の進出

第6章 近代数寄者の地域的展開

関西地域の近代数寄者の存在形態  
中京地域でのネットワーク  
金沢地域の茶人群像と系譜

第7章 美術・骨董品蒐集家の存在形態と地域分布

美術・骨董品蒐集家の経済力と存在形態  
美術・骨董品蒐集家の府県別分布状況

第8章 近代数寄者の茶界の終焉

戦中期の近代数寄者の動向  
戦後のネットワーク  
『小林一三日記』の茶の世界

(さいとう・やすひこ)……1947年、東京都生まれ。筑波大学大学院博士課程単位取得満期退学。現在、山梨大学教授。著書に、『地方産業の展開と地域編成』（多賀出版、1998年）『転換期の在来産業と地方財閥』（岩田書院、2002年）『産業近代化と民衆の生活基盤』（岩田書院、2005年）『地方財閥の近代——甲州財閥の興亡』（岩田書院、2009年）など。

思文閣出版

〒606-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近代数寄者のネットワーク		本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1603-1	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

## 蕙象録 高橋箒庵日記 [全9巻]

大濱徹也・熊倉功夫・筒井絃一校訂

「近代茶道鼓吹の第一人者」とされた高橋箒庵。本書は、その箒庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には昇界人との交流を綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

【最終巻 未刊】

▶A5判・平均450頁/既刊(8冊) 揃定価 69,300円

## 文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において水木要太郎(1865-1938)により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古学・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

▶A5判・508頁/定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

## 与謝野晶子と小林一三

逸翁美術館編

実業家であり数奇者でもあった小林一三が、その才を見込み支援した作家・与謝野晶子。彼女が一三に贈った「源氏物語礼讃歌」短冊全54枚(カラー)、これを詠むきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」(カラー)をはじめ、その由来を記した手紙や、交流を物語る資料116点を収録した、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

▶A4判・94頁/定価 1,050円

ISBN978-4-7842-1567-6

## 近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁/定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

## 幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

難解であるとの理由から今まで全面的な研究がなされてこなかった幸田露伴。さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチした、国際日本文化研究センター共同研究成果13篇。

▶A5判・318頁/定価 5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

## \*茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷崎潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。【目次】茶書中に見られる恋への言説/恋の茶会/銘の世界/恋とは何か?

▶A5判・232頁/定価 3,990円

ISBN4-7842-1313-9

## 近世京焼の研究

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれた焼き物の窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田彌川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にした。陶業の技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方などの視点から京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁/定価 6,615円

ISBN978-4-7842-1558-4

## 建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築/茶室/建築生産史/都市史/近代建築についての15篇。

▶A5判・590頁/定価 9,450円

ISBN4-7842-1202-7

## \*原三溪翁伝

藤本實也著

原三溪(1868-1939)は、生糸貿易や製糸業で活躍した横浜の事業家。美術・茶道に造詣が深い文化人・パトロンであり、広大な私邸を三溪園として一般公開し、関東大震災後の横浜の復興に尽くすなど、社会事業家としても活動した。藤本實也が戦時中にまとめ、稿本のままで活字化されていなかった幻の原稿『原三溪翁伝』を校訂を加えて刊行。

▶A5判・936頁/定価 16,800円

ISBN978-4-7842-1476-1

## \*茶の湯文化と小林一三

逸翁美術館編

阪急東宝グループを起し、明治・大正・昭和の実業界で活躍した小林一三。また「近代数奇者」として確かな審美眼で収集された膨大なコレクションは、その遺志で逸翁美術館に受け継がれた。本書では、小林一三(逸翁)の世界を「茶道との出会い」「逸翁の茶懷石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそって紹介。

▶A4判・148頁/定価 2,000円

ISBN978-4-7842-1485-3

## 与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」

伊井春樹著

小林一三(1873-1956)による与謝野家への物心両面での庇護下、「源氏物語礼讃歌」が詠まれた背景、いつ秋成の短冊屏風を目にしたのか、さらには晶子自身においても、代表作としての認識がどのように醸成されていったのか、逸翁美術館特別展覧会のテーマをより深く追い求めた一書。

▶A4判・226頁/定価 1,470円

ISBN978-4-7842-1568-3

## みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。『京都新聞』に連載されたものを再構成。

▶A5判・268頁/定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

## 近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テラゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。【目次】第一部 近代茶道の三つの転換期/第二部 伝統文化の解釈者たち/第三部 茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁/定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

## \*茶書の研究・茶人の研究 [全2冊]

末宗廣著

茶人であり、めききでもあった著者は、同時に近代的茶道史研究の先駆者でもあった。秘庫に蔵せられた茶書を探り、膨大な数の茶人を記録し、茶道史研究に文献史学の方法を導入、新しい領域を切りひらいた著者の60余年の研究業績を集成。その発表論文の中から、茶道・茶人にかかわる研究を2冊に収める。

▶菊判・総1,450頁/定価 30,450円

ISBN4-7842-0240-4

## \*釜の歴史と鑑賞

木下桂風著

釜に関する書籍は決して少なくないが、正史としてみるべき釜史がない中で、釜の製作および鑑定権威者であった大西浄長翁の家宝である釜図録や釜師諸氏所蔵の古文書類を比較検討して釜師評伝を編纂、昭和28年に上梓したものの復刻。釜図版111点、釜形図96点掲載。

▶A5判・368頁/定価 3,675円

ISBN4-7842-0239-0

## 名家伝記資料集成 [全5巻]

森繁夫編

短冊の蒐集、伝記研究で知られた大阪の実業家、森繁夫氏が二十数年の歳月をかけて調査編集した草稿を、短冊、古筆など広く古典籍の蒐集で著名な中野莊次氏が更に二十数年かけて浄書、補訂したものである。鎌倉末期から昭和20年までに没卒した国学者・歌人・漢学者・文人・高僧・芸術家・政治家・志士等の45,000名の伝記資料を集大成。

▶A5判・総5,400頁/定価 136,500円

ISBN4-7842-0682-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。